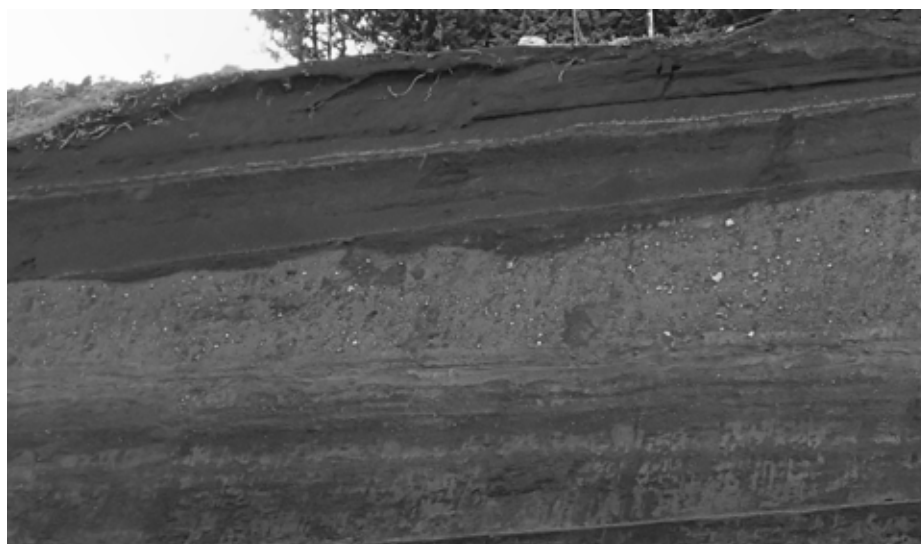
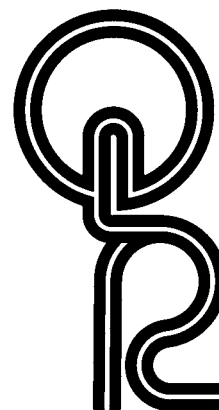


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 27 No.6, 2020



静岡県小山町の道路工事現場で姿を現した富士山起源の堆積物。写真中央の角礫が散在するやや淡色の部分が約2,900年前の御殿場岩層なだれ堆積物。地表面直下には江戸時代の宝永噴火による降下火砕物（基底部には宝永噴火初期に噴出した白色軽石層）が見られる。（撮影：小林 淳）

---

Vol. 27 No. 6

December 1, 2020

---

2020年オンライン大会案内..... 2	学術会議会員任命拒否に関する学会の 対応..... 6
2021年大会案内（第2報）..... 3	2020年度会費早期納入のお願い..... 7
JpGU2021年大会案内（第1報）... 3	執行部会議事録..... 7
新名誉会員紹介..... 3	会員消息..... 8
学会賞等推薦のお願い..... 5	表紙写真募集..... 8

---

## ◆日本第四紀学会 2020年大会案内

本年度の大会は新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン形式で実施します。たくさんの皆様のご参加、ご発表をお待ちしています。なお、懇親会は開催しませんので、ご了承ください。

### 1. スケジュール

開催日程：2020年12月26日（土）～27日（日）

発表申し込み締め切り 11/24（火）：原稿はPDF形式で登録してください。

参加申し込み締め切り 12/19（土）

プログラム公開 12/1（火）

### 2. 参加・発表の登録等

- ・大会参加には事前申し込みが必要です。また、発表を行うには講演要旨の提出が必要です。
- ・参加・発表の申し込みは、以下のサイトから行います(学会HPの2020年大会のページからも入れます)。  
<https://sites.google.com/japangeoservice.com/2020jaqr/>
- ・日本第四紀学会会員以外の方の投稿は、招待または特別セッションに限ります。
- ・非会員の方で筆頭著者として一般発表を希望される場合は、至急入会手続きをお願いします。日本第四紀学会への入会手続きは、学会ウェブサイト「入会・会費の支払いについてのご案内」をご覧ください。
- ・要旨・ポスターの投稿はDropboxを使って行います（上記ウェブサイト内に要旨提出用サイトへのリンクがあります）。
- ・講演要旨のひな形は上記ウェブサイトにてダウンロードできます。
- ・講演要旨集は大会前に専用サイトからダウンロードできるようにします。

### 3. 大会の主なプログラム

口頭発表はZoomによるリアルタイムの講演となります。ポスター発表は事前登録したPDF形式の画像を掲載します。

- 一般研究発表（口頭発表、ポスター発表）

12月26日 AM・PM

12月27日 AM・PM

ポスターは12月26・27日を通じて掲示します。

- 2019年学会賞・学術賞受賞記念講演会

12月27日 AM

#### 【若手・学生発表賞】

優れた研究発表を奨励し、研究発表をエンカレッジするために、若手・学生発表賞を設けています。投稿時にエントリーがあった口頭およびポスター発表が対象で、筆頭発表者である39歳以下または学生の正会員に授与されます。積極的なエントリーをお待ちしています。

本賞に関する規定・選考基準は学会HP (<http://quaternary.jp/prize/index.html>) をご覧ください。

### 4. 参加費

大会参加費、講演要旨のダウンロードは無料です。

### 5. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：齋藤文紀（日本第四紀学会会長）

大会実行事務局長：藤原 治（産総研）

実行委員：学会執行部会メンバー、広報委員会ほか

行事委員会：藤原 治（産総研）・池原 実（高知大）・岡田 誠（茨城大）・井上 淳（大阪市立大）・目代邦康（東北学院大）・村田昌則（都立大）

### 6. 講演申し込みに関する注意

講演方法は「口頭」もしくは「ポスター」を選択して頂きます。登録数によっては大会実行委員会から

講演形式の変更をお願いする場合がありますので、あらかじめご了承ください。

大会のZoomのアクセスURLは、登録いただいたメールアドレス宛に後日お送りします。Zoomの接続情報は大会参加者以外に知らせないでください。本オンライン大会で配信される映像や音声の録画、録音、ダウンロード、画面のキャプチャーを固く禁じます。

ご不明な点は [jaqua2020\\_online\\_meeting\(at\)googlegroups.com](mailto:jaqua2020_online_meeting(at)googlegroups.com) にお問い合わせください。

### ◆日本第四紀学会 2021年大会案内（第2報）

会場：大阪市立大学・大阪市立自然史博物館  
(会場予約などの事情で日程変更の可能性もあります)

期間：2021年8月27日(金)～30日(月)  
8月27日(金)、28日(土)：一般発表・総会  
8月29日(日)：シンポジウム(現在、検討中)  
8月30日(月)：巡検(兵庫県北部地域)

### ◆日本地球惑星科学連合 2021年大会 (JpGU 2021) のお知らせ (第1報)

2021年5月30日(日)～6月3日(木)に日本地球惑星科学連合2020年大会が、オンライン開催+現地開催のハイブリッド形式で開催されます。現地会場はパシフィコ横浜ノースです。第四紀学会では、これまでと同様に、「第四紀：ヒト-環境系の時系列ダイナミクス」を単独で、「活断層と古地震」を他学会と共同で主催予定です。ほかにも第四紀関連セッションが多数提案される見込みです。会員の皆様の積極的な参加を期待しています。大会に関する詳細は [http://www.jpгу.org/meeting\\_j2021/](http://www.jpгу.org/meeting_j2021/) をご覧ください。

日本地球惑星科学連合 2021年大会 - JpGU2021

日時：2021年5月30日(日)～6月3日(木)

主催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

※開催日程を拡大する可能性およびオンライン開催になる可能性があります。

※参加登録料、投稿料等は現時点で未定です。(2020年11月7日現在)

#### 【主な日程】

セッション提案 2020年10月13日(火)～11月4日(水)

開催セッション公開 2020年12月21日(月)

投稿受付 2021年1月13日(水)～2月18日(木)

### ◆日本第四紀学会新名誉会員の紹介

名誉会員候補者選考委員会(奥村晃史委員長、岡崎浩子委員、公文富士夫委員、百原 新委員、米田 穰委員)において、選考報告時点で満年齢70歳以上、会員歴20年以上、評議員経験10期以上で幹事経験のあることを目安として候補者を抽出し、さらにその他の委員就任回数や学会賞・学術賞の受賞歴など学会への貢献、日本学術会議等、第四紀研究の普及や振興に関わる委員や委員長の歴任、さらに研究業績や学会・社会への貢献等も考慮して、委員全員の賛成が得られた3名が推薦された。2020年7月9日の2019年度第2回評議員会において、名誉会員候補者選考委員会から推薦されたこれら3名の会員が名誉会員候補者として推薦され、8月29日の日本第四紀学会2020年オンライン総会において、名誉会員として承認された(お名前はアルファベット順)。

**名誉会員 岩田修二氏**



岩田修二会員(1946年生)は日本の高山と寒冷地域の地形・環境、ヒマラヤ・チベットとその周辺地域や世界各地の氷河と周氷河現象、そして南極の地形の研究を1960年代後半から精力的に継続して来られました。とくに、温帯・亜熱帯であるアジアや日本の氷河と周氷河現象の研究では、世界にさきがけて独創的で先駆的な成果をあげ、多数の著書や論文にまとめられました。なかでも『氷河地形学』(2011年)はその集大成です。1981年には、ヒマラヤでの研究に対し、日本学術振興会から第17回秩父宮記念学術賞が授与されました。1984年と1990年には南極地域観測隊夏隊に参加して地形調査に成果をあげられました。最近では『統合自然地理学』(2018年)を提唱され、環境保全や地球温暖化に伴う氷河湖決壊洪水問題、

ジオパーク活動にも幅広く携わっておられます。岩田修二会員は、日本第四紀学会で1981年から2009年までの間に評議員を通算8期務められ、その間幹事を1期務められました。さらに日本学術会議第19期地質科学総合研究連絡委員会第四紀学専門委員会委員長を務めるなど、学会へも大きく貢献されました。2013年には、「山岳氷河地形と堆積物および山と人間活動に関する一連の研究」により学会賞を受賞されました。

**名誉会員 海津正倫氏**



海津正倫会員(1947年生)は、日本における沖積低地の研究から、完新世の海水準変動の研究を精力的にすすめられ、さらにアジア各国における沖積低地研究に対象を広げられ当該分野の研究を牽引されてきました。その研究成果は『沖積低地の古環境学』(1994年)や『沖積低地の地形環境学』(2012年)、『沖積低地—土地条件と自然災害リスク—』(2019年)などにまとめられ、大きな業績を残されました。ガンジス・ブラマプトラデルタの研究では、ボーリング調査による研究を始められ、自然災害や防災、環境保全の観点からも海岸平野研究を先導されています。特に近年多発している集中豪雨による水害に関して、沖積低地の地形研究と第四紀学の立場から、災害予測と被害軽減に積極的に取り組んでおられ

ます。海津正倫会員は日本第四紀学会の評議員を通算10期務められたほか、広報幹事、第四紀研究編集委員、海岸・海洋プロセス研究委員会代表なども努められました。また、日本学術会議第18期第四紀研究連絡委員会委員、同第22期・23期連携会員を務めるなど長年にわたり本学会の運営と第四紀学の振興にも貢献されています。2013年には、「沖積低地と自然環境変化に関する一連の研究」により学会賞を受賞されました。

**名誉会員 吉川周作氏**



吉川周作会員(1946年生)は、大阪層群および琵琶湖層群の火山灰層を対象に、高精度の火山灰層序を確立し、当該分野の研究を長年牽引し続けてこられました。なかでも、琵琶湖や大阪湾周辺で採取されたボーリングコア試料に対して、共同研究者とともに行われた火山灰・微化石による高時間分解能の解析は、海洋酸素同位体層序と対比され過去40万年間の高精度火山灰編年を確立しました。この成果は、地質学だけでなく古気候学、古海洋学、古生物学、地球物理学など多くの分野に貢献し、発表された論文はいずれも引用件数が多く、学会誌の発展にも大きく貢献しています。また、溜池や城郭の濠の堆積物の詳細な分析や年代測定から、最近の歴史時代の人間活動を明らかにする研究でも画期的な成果を

あげておられます。吉川周作会員は、本学会の評議員9期、編集委員、編集幹事、日本学術会議第17-18期第四紀研究連絡委員会委員を務めるなど、長年にわたり本学会の運営と第四紀学の振興にも貢献されています。2010年には、「火山灰層序および完新世環境地質に関する一連の研究」により学会賞を受賞されました。

## ◆ 2021 年「日本第四紀学会学会賞」等の推薦のお願い

「日本第四紀学会会則」の第3条(3)に基づき、2021年日本第四紀学会学会賞(以下、学会賞)、日本第四紀学会学術賞(学術賞)、日本第四紀学会若手学術賞(若手学術賞)並びに日本第四紀学会論文賞(論文賞)、日本第四紀学会奨励賞(奨励賞)の受賞候補者の推薦募集を行います。前3賞は学会賞選考委員会が会員からの推薦をもとに受賞候補者を選考し、後2賞は論文賞選考委員会が会員からの推薦を参考に受賞候補者を選考します。最終的に2021年6月頃に開催される評議員会で受賞者が決定され、2021年大会で表彰される予定です。会員のみならず多数のご推薦をお待ちしております。

なお、推薦にあたっては、学会HPの「会則・規則」のページ(<http://quaternary.jp/intro/rules/rules.html>)に掲載されている「日本第四紀学会顕彰規程」及び関連する内規をご参照の上、下記に従って推薦書類をお送りください。また、過去に受賞した会員は、論文賞を除き同じ賞を受賞することはできませんので、学会HPの「歴史」のページ(<http://quaternary.jp/intro/gakkaisho.html>)で歴代受賞者を事前にご確認頂きますようお願い致します。

## 1. 各賞の概要と推薦書類の記入内容

## ■学会賞・学術賞

学会賞と学術賞は、第四紀学の発展に寄与する研究や学会活動への貢献を行ってきた会員に贈られる賞です。

学会賞：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動および学会活動に貢献した正会員に授与。学会における最高の賞。毎年若干名。

学術賞：第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著書(研究グループ等を含む)によりなされた場合には、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

下記の情報を記した推薦書類を作成して、主要業績リストと併せて日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先(自薦を含む)
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 学会賞の場合には、具体的な業績や活動内容を示した受賞件名  
学術賞の場合には、授賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名
- (5) 推薦理由(1000字以内)

## ■若手学術賞

若手学術賞は国際誌等における研究発表を通して第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた若手会員(2021年4月1日時点で39歳以下の会員)に授与されるものです。受賞者数は若干名で、受賞対象は過去2年間の国際誌等に掲載された論文(オンライン化された論文を含む)の筆頭著者とします。受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

下記の情報を記した推薦書類を作成し、推薦する論文のPDFとともに学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先(自薦を含む)
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 推薦論文題目、論文が掲載された雑誌名および出版年月・巻・号・頁、またはオンラインの公開日及びDOI
- (5) 推薦理由(800字以内)

## ■論文賞・奨励賞

論文賞と奨励賞は、過去2年間に刊行された「第四紀研究」(第58巻第1号～第59巻第6号)に掲載された論文と著者が対象となります。

論文賞：会員である論文著者全員に授与。毎年1～2件程度。対象は掲載された全ての論文(短報を含む)。

奨励賞：会員である筆頭著者に授与。年齢は2021年4月1日時点で35歳以下。毎年1～2件程度。受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

## 学会賞等推薦のお願い

推薦書類には下記の情報を記し、学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 論文賞の場合には、全著者名と推薦論文名
- (4) 奨励賞の場合には、候補者名と推薦論文名
- (5) 推薦理由（1000字以内）

### 2. 推薦書類の送付先

各賞の推薦書類は、郵送または電子メールで日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。送付先の住所ならびに送信先のメールアドレスは下記のとおりです。

郵送：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

メールアドレス：daiyonki(at)shunkosha.com（“at”の部分“@”に変えて下さい）

郵送の場合の宛名は、学会賞・学術賞・若手学術賞の推薦書類については、「日本第四紀学会 学会賞選考委員会」宛、論文賞・奨励賞の推薦書類については「日本第四紀学会 論文賞選考委員会」宛として下さい。電子メールの場合には、上記のそれぞれの宛先名を電子メールの件名に入力して送信して下さい。なお、PDF等のファイルを電子メールで送る場合、その容量が大きい場合（10MB以上）には、ファイル転送サービスを利用して下さい。

### 3. 提出期限

推薦書類の提出期限は、いずれも2021年2月28日（日）です。

## ◆日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する緊急声明について

広くニュースなどで報道されていますように、日本学術会議の新会員推薦者105名のうち6名の任命が内閣総理大臣によって拒否されました。10月9日午後9時を越える学協会から緊急声明が発信され、日本第四紀学会も賛同学会として名前を連ねることになりました（下記リンク参照）。政府と日本学術会議の話し合いによって早期に解決されることを希望いたします。

### 共同声明への参加の経緯

地球惑星科学連合（JpGU）の田近会長から日本学術会議会員任命拒否に関する声明に関して、JpGUの学協会長会議に検討依頼があり、渡辺議長から10月6日午後に参加各学協会に共同声明への賛同と各学協会名を連ねることへの検討依頼がありました。その後、10月7日の20時に最終的な声明文の原案が届き、10月9日正午が各学協会からの回答の締め切りとなりました。日本第四紀学会では、執行部会において審議した結果、声明文に学会名を連ねることに賛同することと、声明文への意見を付記して学協会会議議長に回答いたしました。

### 日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する緊急声明

第25期日本学術会議会員候補者の一部について、政府により理由を付さずに任命が行われなかったことに関して憂慮しています。従来の運営をベースとして対話による早期の解決が図られることを希望いたします。

[http://www.jpгу.org/wp-content/uploads/2020/10/seimei\\_scj202010091300.pdf](http://www.jpгу.org/wp-content/uploads/2020/10/seimei_scj202010091300.pdf)

会長 齋藤文紀

## ◆2020年度会費の早期納入のお願い

2020年度の会費請求につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響と会費減免を検討した結果、請求書の発送が遅れ、会員の皆様のお手元に届いたのが9月下旬頃となってしまいました。そのため、今年度の会費納入を済ませた会員はまだ少なく、会費の納入をお願いする次第です。

2021年は会長・副会長・評議員の選挙が行われることになっていますが、2021年2月1日時点で会費が納入されていないと、正会員は役員選挙規程第15条に基づき、この役員選挙の選挙権並びに被選挙権が与えられません。遅くとも2021年1月までに納入をお願いいたします。なお、会費の納入状況は会員マイページで確認することができます。日本第四紀学会ホームページ (<http://quaternary.jp>) のトップページにある「会員マイページ」に入ると、「会費の確認」欄からご自身の会費支払い履歴を見ることができます。また、2020年度の会費減免申請を予定されている方は、2021年1月までに申請を済ませてください。申請方法の詳細は、第四紀通信第27巻第4号の会費減免に関する案内をご覧ください。

(庶務・会計委員会)

## ◆日本第四紀学会 2020年度第3回執行部会議事録

日時：2020年9月4日（金） 14:30～17:30  
 方法：Zoomシステムを使ったオンライン会議  
 出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、高原 光（副会長）、水野清秀（庶務）、齋藤めぐみ（会計）、北村晃寿（編集）、藤原 治（行事）、白井正明（広報）、奥村晃史（領域2）、里口保文（領域3）、工藤雄一郎（領域4）  
 オブザーバ：永峯菜穂子・春恒社（事務局）、久保田好美・高橋尚志（庶務）、発表会請負業者

### 主な審議事項・意見交換

(1) 2020年オンライン大会の実施体制及びホームページ上での大会案内及びリンクのイメージについて確認した。また、業者による申し込み方法や発表の方法について説明を受け、検討を行った（後日、業者への依頼は取りやめとなった）。

(2) 会員マイページのシステム担当者（春恒社）に参加してもらい、会員情報の公開イメージ、情報のセキュリティ、公開システム作成に必要な期間、役員選挙への対応、会費の支払い状況の表示や支払い方法などについて確認を行った。

(3) 第30回環境地質学シンポジウムの共催依頼に対して、共催を承諾することを決定した。

(4) 8月29日に行ったオンライン表彰式のビデオについて、2週間程度の期間で会員に限定して公開することにした。

(5) オンライン総会について総括し、採決、画面表示など技術的な問題をまとめておくこと、報告事項と審議(承認)事項を明確に区別しておくこと、対面とオンラインを併用する場合の手法の検討が必要なこと、参加者を増やす・質問をしやすくするなどの今後の課題をまとめた。

## ◆日本第四紀学会 2020年度第4回執行部会議事録

日時：2020年10月21日（水） 10:00～13:00  
 方法：Zoomシステムを使ったオンライン会議  
 出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、高原 光（副会長）、水野清秀（庶務）、齋藤めぐみ（会計）、藤原 治（行事）、北村晃寿（編集）、白井正明（広報）、小荒井 衛（渉外）、横山祐典（領域1）、奥村晃史（領域2）、里口保文（領域3）、工藤雄一郎（領域4）、目代邦康（領域5代理）  
 オブザーバ：久保田好美（庶務）

### 主な報告事項

(1) 日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する緊急声明に関して JpGU から検討依頼があり、

共同声明文へ学会名を連ねることに賛同することと声明文への意見を付記して学協会会議議長に回答した。

(2) 2020年オンライン大会での一般研究発表方法・申し込み方法・期限・要旨フォーム等を確定し、ホームページ内に大会に関するページを作り、申し込み先とリンクを張った。

(3) 第四紀研究第59巻第6号（総説1編・受賞記念1編）の印刷工程中。10月19日現在、受理済み原稿（書評を除く）は2編、手持ち原稿は論説8編、短報2編、総説1編、資料1編、講座2編である。また、編集委員長代理が必要となった場合の選出方法を決めた。

### 主な審議事項・意見交換

(1) JpGU2021 セッション提案は例年どおり「第四紀」と「活断層・古地震」(他学会と調整必要)を提案することにした。また、ジオパーク・コンソーシアムへの対応について、まず領域5の関係者で相談することにした。

(2) 会員マイページでの会員情報の公開項目について議論し、学生・院生会員、入会年度等の情報を加えること、生年、性別の情報は出さないこと、検索のために会員名表記を漢字・カナ・英語(ローマ字)の3種にすることなどを決めた。

(3) 今後のスケジュールについて検討し、学会賞・論文賞等候補推薦の締め切り(2021年2月28日)、役員選挙公示と投票期間(2021年3月～4月)、学会賞・論文賞等候補者選考答申締め切り(2021年5月31日)、評議員会、新役員の分担相談会議などの大まかな開催時期を決めた。

(4) 古い事務局資料(1985-2008年度頃)の処分方法について意見交換を行い、既に第四紀研究や第四紀通信に掲載されている資料は廃棄し、引継ぎ資料、公文書、選挙結果記録などは電子化して保存する方向で検討することにした。

### ★★★ 表紙写真を募集しています ★★★

あなたの撮影した写真(または作成した画像)で、第四紀通信の表紙を飾りませんか?

- ・白黒・横長の画像を広報委員会アドレス(jaqua-koho(at)quaternary.jp)までお送りください。白黒化は広報委員会に任せて構わなければ、カラー画像でも構いません。
- ・目次や説明文の分量に応じて、写真をトリミングすることがあります。
- ・なるべく120字以内、最大150字の説明文を添えてください(最近の例に従って、撮影者や作成者のお名前を文末に入れてください)。
- ・第四紀に関連するとは言い難い画像の場合は、掲載をお断りする場合があります。
- ・複数の方から提供いただいた場合は、話題性などを考慮して順番を決めますので、ご了承ください。(広報委員会)

### ★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日本第四紀学会では、第四紀通信のほか、メーリングリスト(ML)、ホームページ(HP)を用いて情報発信をしております。メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス(jaqua-koho(at)quaternary.jp)へご投稿ください。

情報発信の手段として、MLの積極的な使用をお願いします。MLへのご投稿についての詳細は、第四紀通信27巻4号の巻末をご覧ください(下記の通りHPでも閲覧可能です)。第四紀通信には主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報を、HPには主催・後援イベントなどのほか「公募・助成」情報等を掲載します。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

第四紀通信は偶数月1日刊行予定としていますが、奇数月下旬には版下をHP(<http://quaternary.jp/>)にアップしていますのでご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176